

全国医療通訳者協会の活動

一般社団法人全国医療通訳者協会

代表理事 森田 直美

はじめに

2018年末時点で、全人口の2.1%にあたる273万人の在留外国人が日本で生活している。以前は大都市や工業地帯など特定の地域に集まる傾向にあったが、技能実習生や日本語学校生などの増加もあり、今では全県に居住している。居住者の地域分布、出身国や来日目的なども様々である。例えば、東京都新宿区では全人口の12%が外国人である。また、日本を訪れる観光客の数も急増している。この10年間で入国者数は3倍以上増加し、2018年度末には3,010万人に達した。

人の流れが増えれば、病気やけがで治療が必要になる可能性も増加する。体調が悪いときに、母国語で受診のサポートを受けられたらどれだけ気持ちよくなるだろう。

全国医療通訳者協会の設立経緯

一般社団法人全国医療通訳者協会（NAMI）は2016年に関西と関東のベテラン医療通訳者6名で設立された。きっかけは、オリンピック開催地が東京に決まった2013年頃から医療通訳の話題が、にわかに増えてきたことだった。通訳者不在のまま医療通訳の議論が進むことに危機感を覚えた。通訳者や団体が集まり声を上げること、日本での医療通訳の歩みや背景、状況を正しく発信することが大切だと感じた。

NAMIは、医療通訳者が医療通訳者のために設立した職能団体である。医療通訳の普及と発展を通して、医療保健場面で通訳を必要とする人々の健康と福利に貢献していくことを目的としている。現在全国に13言語、240人の会員を擁している。また賛助会員には、活動に賛同する医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、大学職員、地方自治体職員などがいる。活動内容は、医療通訳を専門職として確立させ、かつ社会的地位向上のために医療通訳者の質や技能の担保、労働環境整備などに取り組むこと、また医療通訳資格認証・研修制度整備に向けて働きかけることなどである。

ここからは、医療通訳利用におけるコツについて触れる。

医療通訳形態

通訳形態には、「対面式」と「電話・遠隔通訳」、

AIなどを利用した「音声翻訳機器、通訳アプリ」がある。対面式通訳は、NPOや国際交流協会、民間団体などが訓練を受けた医療通訳者を医療機関に派遣していることが多い。また病院で雇用されている通訳もいる。対面式だけでは、全国のニーズに対応することができないため、異なる通訳形態を上手に組み合わせて利用することが理想である。

医療通訳を利用する

外国人患者が医療機関を受診する時は、事情を説明し医療通訳が利用可能かを問い合わせしてほしい。在住者は、日常生活では日本語が困らない場合もあるが、体調が悪い時は日本語がすぐに出てこなかったり、医療用語がわからない時も多い。観光客は日本語がほとんどできないと考えたほうがいだろう。通訳を利用することで、医療者は、詳細な問診が可能になり、無駄な検査を省くことができる。また正確な診断は医療安全に貢献する。患者は、主訴や痛みをストレスなく伝えられ、治療内容を十分理解、納得してから同意することができる。丁寧なコミュニケーションは、信頼関係を生む。文化や医療制度の違いからくる食い違いに直面した場合、医療通訳者がいれば早期に気づき、指摘してくれることもある。

医療通訳を配置した外国人患者受入れ拠点病院が各県に整備されつつある。しかし地域の病院や保健所にかかることもあるだろう。そのような時は、地域の国際交流協会やNPOに直接連絡をして相談するのもいい。NAMIのホームページには、全国の派遣団体一覧表が掲載されているので参考にさせていただけたらと思う（<https://national-association-mi.jimdo.com/>医療通訳派遣団体リスト）。保健所のDOTSなど結核患者支援時の通訳に対応している団体もある。

NAMIが調査したところ、全国の国際交流協会とNPOで医療通訳の研修や派遣を行なっているのは約38団体であった。そのうち通訳者の登録数が確認できたのは、15団体、計1,500人（23言語）だった。各団体の登録通訳者は、基本的に職業倫理や医療知識、行動規範を学習し、通訳訓練を受けている。料金は、団体によって異なるので問い合わせしてほしい。

厚生労働省が平成31年3月に発表した「医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査」の結果によると、病院雇用の通訳者は全国で350名程度しかいない。また日本では医療通訳が職業として十分確立されていないと考える。また通訳者のレベルも様々である。このような中で、通訳を利用する時には次のような点に注意をしたい。

通訳セッションを始める前に、内容の事前打ち合わせをお願いしたい。出てくるキーワードを伝えておくと、通訳者が事前に辞書で意味を調べておけるので本番でスムーズに通訳ができる。特に結核患者支援については、「排菌」「肺外結核」「潜在性結核感染症(LTBI)」など独特な言葉も多い。できるだけ専門用語は避け、平易な表現を使う点は日本人の患者に話すときと同じである。入院勧告書などの行政文書は日本語だけでなく対象言語の文書も持参したい。全国保健所長会のホームページからもダウンロードできる (http://www.phcd.jp/02/t_gaikoku/)。

通訳者は、逐次通訳で1行ずつメモを取りながら訳していくので、ゆっくりとしたスピードで話し、必要に応じて聞き返しや辞書を引く時間を与えてほしい。患者に正しく伝わったかどうかを確認するために、患者に復唱してもらい、理解したことを話してもらうのもいいと思う。

バイリンガルのアドホック通訳を利用する

専門通訳がない時は、わずかでも対象言語が話せる人に通訳してもらうことが多いと思う。訓練を受けていない通訳のことをアドホック通訳 (ad hoc interpreter) と呼んでいる。日本語ができる外国人患者家族・友人や外国語ができる職場の上司などが担当することが多い。しかし海外では、使用を制限している国もある^{1)~3)}。使用は、簡単なやり取りや重大な責任を伴わない場面に限定することが大事である。誤訳、正確な会話が成立しない可能性や、利害関係がからみ患者の発言が意図的に歪曲されてしまう可能性があることを念頭において欲しい。打合せ後、通訳者にはまず簡単な話を訳してもらい、言語スキルを把握してからセッションを始めるのも一助となる。通訳の守秘義務を遵守してもらえよう念を押す必要もある。

遠隔・電話通訳を利用する


遠隔通訳は、タブレットなどを利用して、オペレータ通訳を介して訳してもらう方法である。事前に業者

と契約しておく必要はあるが、遠隔通訳利用は、慣れると簡便である。利用する時には、ゆっくり話し、薬や手元の視覚情報が見えるようにタブレットのカメラを必要に応じて動かす。電話通訳も、基本的には有料で医療機関が契約を結んでいないと利用できないが、AMDA国際医療情報センターが提供している電話医療通訳は無料で利用できる (<https://www.amdamedicalcenter.com>)。電話の場合、音がクリアでないことがあり、また視覚情報が利用できないので利用する場合は、対面式よりも意識してはっきりと発音し、短めに文章を区切っていただけると通訳しやすい。

音声翻訳機器、通訳アプリ

「ポケットク」は民間会社が開発した小型の音声翻訳機器で74言語に対応している。機器に向かって話しかけると音声とテキストで翻訳される。「VoiceTra」は情報通信研究機構 (NICT) が手がける無料アプリで31言語に対応している。どちらもスピーディに通訳してくれるので便利である。日常会話、簡単な医療に関する説明には十分対応できる。ただ日本語の医療用語に多い同音異義語はまだ苦手で「勧告入院」を「韓国入院」、「排菌」を「拜金」と訳してしまうなどのエラーも認められた。地域により発音が異なる言語や文法を間違えて話したときにどの程度AIが柔軟に対応できるのかが気になる。医療現場では正確性が求められるので、さらなる技術の向上が期待される。

まとめ

医療通訳は、全国的な制度作り、研修や質の担保、認証制度や報酬の実現など課題も山積している。しかし、外国人患者に寄り添い、ことばと文化の橋渡しをする医療通訳者は日本が迎えようとしている本格的な多文化社会には欠かすことができない存在であり、NAMIは誰でも必要な時には利用できるよう普及活動を続けていきたい。

参考文献

- 1) Queensland Government. Guidelines on working with interpreters. https://www.health.qld.gov.au/_data/assets/pdf_file/0033/155994/guidelines_int.pdf
- 2) NSW Government. Health care interpreting and translating services. <https://www.health.nsw.gov.au/multicultural/Pages/health-care-interpreting-and-translating-services.aspx>
- 3) Association of American Medical College. Guideline for Use of Medical Interpreter Services. <https://www.aamc.org/download/70338/data/interpreter-guidelines.pdf>